様式４

令和５年度　墨田区立業平小学校　経営報告書

校長名　伊藤　康次

学　校　目　標	**学校教育目標】** **◎進んで学ぶ子【重点】** ○やさしい子 ○元気な子 **【長期目標】**　　開校１１０周年に向けた業平小新教育の構築 **【短・中期目標】**　「主体性」・「協働性」・「新たな価値」を生む教育の推進 「長期目標」は、開校１１０周年（令和９年度）時における業平小のあるべき姿を模索していくことをめざして掲げたものである。長期目標の実現に向けて、「短・中期目標」を設定し、３つのキーワードを以下のように定義づける。 ①**主体性**：自分のよさや可能性に気付き、自己を構築、調整できる力 ②**協働性**：多様な他者と関わる力、折り合いを付ける力、納得解を導く力 ③**新たな価値**：新たな知や技能を生み出す力、自他のよさを認める力、自らの生き方を見つめる力 **【業平小５つの教育ビジョン】** 上記の「短・中期目標」の実現のために、次の５つの教育ビジョンを設定する。 ①「子供」を主語にする教育 ②「子供」一人一人を認め、寄り添う教育 ③「温かい厳しさ」のある教育 ④学校・家庭・地域がそれぞれの責任を果たしながら一体となって子供を見守り、育む教育 ⑤持続可能な社会の担い手を育てる教育
目指す学校像	（１）子供たちが自らの誇りにできる学校 ○業平小に通えて嬉しい　○たくさんの仲間に出会えて嬉しい （２）教職員が誇りをもって働くことができる学校 ○働きがいがある職場　○互いに敬意をもち、高め合える関係 （３）保護者・地域が誇りにする学校 ○地域の自慢の学校　○夢や希望があふれる学校
目指す子供像	「独学自修」の校訓の下、人権尊重の精神を基調に、個人として、社会の一員として社会生活を営む上で必要とされる、知識・技能・態度の基礎を身に付け、豊かな人間性を育成する。 また、人間や自然・社会・文化など様々な対象とのかかわりを通じて、自己の個性や良さを発見する素地を養い、自分の道を自ら切り開いていく力を培うために以下のような児童像を設定する。 ◎　進んで学ぶ子　　○　やさしい子　　○　元気な子 特に、 ・自分のよさや可能性に気付き、生き生きと自信をもって発揮することができる子。 ・他者を認め、他者に認められ、互いに支え合い、安心して本校の一員として活躍し、自己の成長を振り返ることができる子。 を目指す子どもの具体的な姿と設定する。
目指す教師像	公立学校の教職員であることを自覚し、児童・保護者や地域社会の人々の期待と信頼にこたえる。そのために、互いに敬意をもち、高め合える関係を築くとともに、 ①研究と研修を土台にして、教育者としての自信と意欲をもつことができる。 ②自らを律し、使命感をもち、組織の一員として協働し目的の実現をめざす。 ③常に互いに敬意と感謝、立場を尊重し合い、自己のライフスタイルの充実をめざす。 という３点をめざす教師の具体的な姿として掲げ、児童、保護者、地域から信頼される教師集団を構築する。

様式４

１　自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	取組目標	自己評価			学校関係者評価	
		達成状況		○分析　・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
各教科等指導等	○**「子供を主語」**にする教育の実現に向けて、対話的に学び、考える力の向上を図る。 ①校内研究では研究主題「考える力を高める授業づくり」の実現を目指し、子供の学びの姿、変容、成長を把握、評価し、授業づくりに生かす。 ②区のデジタル教材等を活用しながら、各教科の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。	３ ４	３ ２	①高学年児童のアンケートを５月と１２月に取り、その変化を分析したところ、「他の意見を取り入れ考えを広げる」１３％増、「どうやったら問題が解決できるか」５％増という結果となった。一方、「自分の考えを伝える」という項目は、１．４％減となり、次年度の重点課題である。 ②学力状況調査の結果、６年算数で下位層が約２５％となっており、引き続き基礎基本の撤退を図る。各教科でタブレットを活用しており、特に、各教科において自分の考えをまとめ、全体に発信、共有することができた。引き続き、様々な活用を研究、実践する。	A A	B B
	○**「子供一人一人を認め、寄り添う教育」**の推進のために、特別な支援を必要とする子供に対して情報の共有、支援の方向性の一貫化を図り、組織的対応力の向上を図る。 ①特別支援教育コーディネーターを複数配置して体制の充実を図り、臨時校内委員会を通して、速やかな実態把握、支援の方向性、組織的対応のあり方を明確にする。	４	４	①　３名体制にしたことで、学級担任や専科教員等からの情報をいち早く共有し、支援の方向性について協議する事ができた。特別な支援を必要としている児童や学校全体で見守る必要がある児童への支援、指導の体制づくりに効果があった。次年度もこの体制を維持していくとともに、より個の実態に応じた学習支援の在り方を検討し、実施する。 ・保護者アンケート「お子さんは、楽しく学校に通っている」肯定的評価９３．７％	A	A
	○**「持続可能な社会の担い手」**を育む教育をめざし、社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組む。 ①地域と関わる活動を通して自己有用感を高める。	３	３	①　スカイツリー英語インタビュー活動を実施することができた。３０カ国、１５０人の、外国人観光客とのふれあいを通して、コミュニケーションに自信をもつ表情が見られた。業平公園清掃活動は、学年を分担しながら全校で実施する事ができた。引き続き、地域のよさを生かし、業平小学校らしい教育活動を展開する。 ・保護者アンケート「学校行事等で友達と協力する場、一人一人の個性が発揮される場」肯定的評価９０．５％	B	A

様式４

	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	具体的Ｃの意見（子どもを主語にする教育） ・分析改善に成果が伴うよう尽力していただければと思います。 ・分析改善方策が具体的とは聞かれずに、伝わってきません。私たちへの結果報告に聞こえます。それでよいならそれも一つですね。これからの社会では、キーボードで表現することは大切ではあると思いますが、文字や対面の方が伝わることが的確と思います。そこを加えていただいてくださると幸いです。

項目	取組目標	自己評価			学校関係者評価	
		達成状況		○分析　・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
生活指導等	○**「温かい厳しさ」**のある教育の実現に向けて、子供一人一人の心に寄り添い、認め、励ましながら、「しなやかな強さ（回復力レジリエンス）を醸成する。 ①個々のストレスや悩み、不安などについて、情報を共有し、共通理解と支援の一貫性を図る。 ②いじめ、不登校等の未然防止や早期発見・早期解決、いじめ防止授業公開を実施し、いじめをしない、させない、見逃さない学校風土を児童間、教師間ともに構築する。	４ ４	４ ２	①学年での情報共有の場を確保できたことにより、担任一人が抱え込むことなく、教職員の打合会において、現状と今後の支援の方向性について、共有できるようになってきた。 ②いじめ等に関するアンケート、いじめ防止授業公開を計画通り実施できた。微細ないじめも見逃すことなく認知することで、早期解決に結びついた。さらに教職員のいじめに対する認知の感度を高め、早期発見・早期解決、再発防止に全力であたるとともに日常的に「いじめをしない、させない、見逃さない」心の教育の充実を図る。 ・児童アンケート（i-Check）「学校が楽しい」５年８５．２％ ６年７６．０％ 高学年平均８０．６％ 【参考】児童アンケート（i-Check）「あなたのことを分かってくれる友達はいるか」 ５年９０．９％、６年９４．９％ ・同アンケートでは、「いじめのサイン」に関する調査結果が全国平均よりも良好な結果となっている。	A A	A B
	○基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育、規範意識の向上を図る。 ①「業平小ルール」の徹底を図り、全教職員でブレのない一貫した指導をめざす。	２	４	①「業平小ルール」２４項目中、２項目に課題があった。１点目が遅刻とする時間の不徹底、２点目が廊下歩行である。登校時刻の厳守については、全教職員で共通して８時３０分を過ぎたら遅刻とすることを徹底して、時間を守る規範意識を育てる。廊下歩行については、まずは、教室移動時に整列して歩くことを基本とする。 ・児童アンケート（i-Check）「きまりを守る」５年９２．０％、 ６年９１．１％	B	A
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	具体的Ｃの意見（いじめ、不登校　　基本的な生活） ・社会に出るためにルールを守ることは大切です。しかしながら学校に行きたくなくなる場所ではいけないと思います。子供たちのアンケート結果注意して拝見いたしました。				

様式４

項目	取組目標	自己評価			学校関係者評価	
		達成状況		○分析　・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
学校の管理運営	○安心・安全な教育活動を行うことができる教育環境・設備等を整える。 ①安全点検の徹底を図り、児童が安心して学校生活を送ることができる環境を整備・構築する。	３	２	①月１回の校内安全点検を確実に実施した。修繕が必要な箇所については、軽微なものは学校管理員が修繕した。プール工事、教室増室工事など大規模な工事、校庭の一部が使用不可の状態であったが、安全に過ごすことができた。引き続き校内の案確認を徹底する。 ・保護者アンケート「事件、事故防止、安全指導、取組」肯定的評価８４．６％	B	B
	②コロナ後の学校教育活動を再構築し、感染症対策の徹底と熱中症やけが、事故のない学校をめざす。	１ （大いに改善が必要）	２	②保健室来室状況（けが） 令和４年度（４～１月期）と今年度を比較すると、約１．２倍と増加。特に高学年では約２倍の児童が、けがで保健室を来室している。コロナが空け、休み時間等、児童の動きが活発になったことに伴うけがの発生と考えられるが、次年度は今年度来室状況を基準とし、来室児童数の減少に努め、けがの未然防止の指導を徹底する。 ・保護者アンケート「感染症対策、安全な学校生活」肯定的評価８５．８％	B	B
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	具体的Ｃの意見（安全点検の徹底、コロナ後の学校教育） ・アンケートの中で「分からない」の数が気になります。 ・先日埼玉県戸田市の取組をみました。保健室来室の話も少しありました。けがと言うことなので元気に遊んでいる姿が目に浮かびます。インフルなどの感染症が心配ですが、よろしくお願いします。 ・学校にとって最大の責任となるところだと考えます。生徒皆さんの安全等、大変お世話になっております。				

項目	取組目標	自己評価			学校関係者評価	
		達成状況		○分析　・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
家庭・地域連携	○**「それぞれの責任を果たし、一体となって子供を見守る」**学校をめざし、保護者や地域の理解や協力を得ながら、それぞれが果たす役割を明確にし、協働して子供を見守り、育む体制を構築する。 ①コロナ後の学校行事等の在り方を検討し、本校における特色ある教育活動を推進する。	４	３	①行事ごとに保護者アンケートをとり、次年度計画に反映させることができた。また、年度末に学校教育全般におけるアンケートを実施した。一方、各種公開講座における意見交流会への保護者の参加を一層促し、アンケートだけではなく、直接、保護者から意見を聞く機会の充実を図ることが次年度の課題である。 ・保護者アンケート「学校行事等で友達と協力する場、一人一人の個性が発揮される場」 肯定的評価９０．５％	A	A

様式４

	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	具体的な C の意見（それぞれの責任を果たし、一体となって子供を見守る） ・地域としては、集団登校の特色が生かされていないような気がします。家庭の事情もあるので、町会としても昔のようにいかないのは分かります。聞くところによりますと、先生方から子どもへの協力は必要ないとの意見をお持ちの方もいます。学校内ではなく地域の取組に協力してほしい。 ・アンケートより対面での意見交換が有意義と思います。よろしくお願いします。

２　令和５年度学校評価のまとめ

新型コロナウイルス感染症の分類が見直され、新たな「業平小の教育のカタチ」を構築する１年となりました。「スカイツリー英語でインタビュー」など地域の特性を生かした教育活動が再開でき、また、他者との交流をより積極的に推進することができた１年であった。学校行事においても、児童が一堂に会して運動会や６年生を送る会などを実施することができたのも成果である。

一方で子供たちのストレスや不安の強さ、登校しぶりや教室に入りにくい子供たちが増えており、一層、子供たち一人一人の心に寄り添う教育が必要であることが学校関係者評価からも大きな課題として、取り組まなければならない。年度末には、入室しぶりの児童を対象にした校内サポートルームを設置することができた。次年度は、校内サポートルームの機能や人的配置、サポート内容を一層充実させ、教室復帰の実績をしっかりと上げ、学校運営連絡協議会にて成果検証の報告と改善策を協議したいと考える。

学力向上については、一定の成果を挙げている一方、学力下位層の児童が減少せず、依然、二極化の課題がある。加えて「考えを表現する」という項目に関する児童の自己評価の微減状況から、校内研究の成果を日常の授業の中に生かすことが一層重要であると考える。学校関係者評価から、具体的な改善策が分からないとの指摘を踏まえ、次年度は、「ジグソー法」などの学習方法を活用しながら個別最適な学びの充実を図るとともに、積極的に自己の考えを表現し、対話する場面、協働的に学ぶ場面を意図的に設定した授業デザインを推し進めていく。

合わせて、タブレット端末等を活用した反復的な学習、前時や前単元の振り返りとアウトプットを個の学びの特性に応じて充実させ、学力下位層の向上、二極化の解消に全力で取り組む。

そして、子供たち自らが問いをもち、追究し、考え、表現し、さらに問いを更新し続けることできる力の育成をめざし、本校の校訓である「独学自修」の実現に向けて、全教職員が一丸となって努力する。

以上の通り報告いたします。

墨田区立業平小学校　校長　伊藤康次　　公印